“経営に知恵と革新”

令和６年３月１日発行（隔月発行）Vol.775 号

マネジメント コンサルタント

Management Consultant

2024年３月・４月号

濃溝の滝（千葉県）

認定経営革新等支援機関
一般社団法人日本経営士会

『第70回定時社員総会』のご案内

第７０回定時社員総会の日程が下記のとおり決定しました。
ハイブリット開催の準備を整えますので、多くの正会員の
皆様にご出席いただきますようお願い申しあげます。
詳細は後日、お知らせいたします。

記

日　時：2024年6月28日（金）15：30～17：00（社員総会）
　　17：20～18：40（懇親会・予定）
会　場：スクワール麹町３階　華の間
　　〒102-0083　東京都千代田区麹町6-6
　　TEL：03-3234-8739　FAX：03-3234-8738

≪アクセス≫　＊ＪＲ中央・総武線　四谷駅　麹町口から徒歩30秒
　　（横断歩道を渡り正面の建物）
　　＊地下鉄丸の内線　四谷駅　四谷口から徒歩３分
　　＊地下鉄南北線　　四谷駅　３番出口から徒歩２分

以　上

一般社団法人日本経営士会ＬＩＮＥ公式で最新情報を

登録募集中!!

＊右記のＱＲコードを
スキャンしてください＊

@890bugal
LINEの「友だち追加」から、ID検索するか
QRコードをスキャンしてください

INDEX

役員、支部長候補中間発表 ・・・・・・・・・2
理事会通信 ・・・・・・・・・4
推薦入会キャンペーンのお知らせ西日本ブロック、NJKコラボ交流会 ・・・・・・・・・6
事業部・委員会活動
資格審査委員会からのお知らせ ・・・・・・・・・7
経営支援事業部　M&A事業検討室：スモールM&Aビジネスを構築する(2) ・・・・・・・・・8
AMCJクロッシング・リアルクロッシング開催 ・・・・・・・・・10
支部活動報告
北海道支部・新年会 ・・・・・・・・・11
北関東支部新潟県会・第41回公開MPP ・・・・・・・・・12
千葉支部・活動報告 ・・・・・・・・・13
埼玉支部・活動報告 ・・・・・・・・・14
東京支部・活動報告 ・・・・・・・・・15
南関東支部・かながわビジネスオーディション2024　協賛活動 ・・・・・・・・・16
中部支部・活動報告 ・・・・・・・・・17
近畿支部・MPP開催 ・・・・・・・・・19
中国支部・活動を通して会員増強を目指す ・・・・・・・・・21
投稿　企業活動と脱炭素、カーボンニュートラルの実現 ・・・・・・・・・22
先哲研究会令和６年2月例会 ・・・・・・・・・24
第55回経営士全国研究会議広島大会最優秀論文（松下暢子） ・・・・・・・・・26
インフォメーション ・・・・・・・・・36

マネジメントコンサルタント（Management Consultant）
発行所：一般社団法人日本経営士会
〒102-0084　東京都千代田区二番町12-12 B.D.A. 二番町ビル5F
Tel：03-3239-0691　Fax：03-3239-1831
https://nihonkeieishikai.com
表紙：濃溝の滝

一般社団法人日本経営士会

役員、支部長候補中間発表

令和4年2月9日

本部役員候補並びに支部長候補立候補届状況について

選挙管理委員会
委員長　多 賀 吉 令

令和6年2月8日（木）に選挙管理委員会が実施した、本部役員候補及び支部長候補の資格審査の結果、下記のとおりになりましたのでお知らせいたします。

記

（敬称略）

1．本部役員候補の立候補状況について

（1）業務執行理事候補について

東日本ブロックからは定数1名に対して

①高橋　直也（東北支部）

1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、業務執行理事候補者として認めました。

中日本ブロックからは定数4名に対して

①児玉　充晴（千葉支部）
②鈴木　和男（東京支部）
③石原　群司（東京支部）
③近藤　安弘（南関東支部）

4名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、業務執行理事候補者として認めました。

西日本ブロックからは定数2名に対して

①三品　富義（中部支部）
②

1名の立候補者が必要要件を満たしましたので、業務執行理事候補者として認めました。立候補者が1名不足していますので、西日本ブロック理事は当該選挙区でブロック会議を開催し、現職のブロック理事を中心に立候補者としてふさわしい正会員を選出、推薦していただき3月11日までに選挙管理委員会宛にご報告願います。

（2）ブロック理事について

東日本ブロックからは定数1名に対して

①石黒　基（北海道支部）

中日本ブロックからは定数1名に対して

①大蔵　充夫（東京支部）

西日本ブロックからは定数1名に対して

①小原　啓子（中国支部）

3ブロックとも1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、ブロック理事候補者として認めました。

（3）本部監事について

全国区定数2名に対して

①春原　和夫（埼玉支部）

②竹内　一登（南関東支部）

2名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、監事候補者として認めました。

2．支部長について（各支部定数1名）

支部長候補者は下記のとおりになりましたのでご報告いたします。

①**北海道支部**：1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：須川清一**

②**東北支部**：1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：山下健二**

③**北関東支部**：立候補者がありませんでしたので、支部幹事会を開催していただき支部長候補者を3月11日までに選挙管理委員会にご報告願います。

④**千葉支部**：立候補者がありませんでしたので、支部幹事会を開催していただき支部長候補者を3月11日までに選挙管理委員会にご報告願います。

⑤**埼玉支部**：1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：江上範博**

⑥**東京支部**：1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：戸田裕之**

⑦**南関東支部**：立候補者がありませんでしたので、支部幹事会を開催していただき支部長候補者を3月11日までに選挙管理委員会にご報告願います。

⑧**中部支部**：1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：江口敬一**

⑨**近畿支部**：立候補者がありませんでしたので、支部幹事会を開催していただき支部長候補者を3月11日までに選挙管理委員会にご報告願います。

⑩**中国支部**：１名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：小原啓子**

⑪**四国支部**：立候補者がありませんでしたので、支部幹事会を開催していただき支部長候補者を3月11日までに選挙管理委員会にご報告願います。

⑫**九州支部**：1名の立候補者が必要要件を満たし、定数と合致しましたので、支部長候補として認めました。**立候補者氏名：西尾廣幸**

よって、**北関東支部、千葉支部、南関東支部、近畿支部、四国支部**は現職の各支部役員による次期支部長候補者推薦の幹事会を開催していただき、3月11日までに選挙管理委員会にご報告願います。その後理事会にて確認いたします。

※支部長の承認は支部総会にて行います。

以　上

理事会通信

＜令和5年度第9回定例理事会(抜粋)＞

記

１．日　時：令和5年12月19日（金）13：00～14：50
２．会　場：ZOOMによるオンライン（本部会議室）

① 令和５年度中間決算について

資料に沿って説明。今期前半はアフターコロナでリアル開催の会合が多かった影響もあり会議費が増加、また会費未納者が例年より多い傾向があるとの報告あった。今後は理事会、委員会等は出来るだけオンラインでの実施、各支部長には未納者に対して働きかけを行ってもらうことで全会一致を以って承認を得た。

②「支部に関する規程」「ブロック支部長会に関する規程」改定について

支部長の役割の明確にすることを目的に改定案を作成。他にも現状に合わせ改定をした旨の説明があった。また「支部長会に関する規程」を「ブロック支部長会に関する規程」に変更する旨の提案があった。

「支部に関する規程」のうち、支部長（支部役員）の承認は支部総会で行い、4月から6月までは前期支部長及び支部役員が支部の運営をするべきであり、3月の理事会で支部長を承認することになっているのはおかしいのではないかとの質問があり、審議の結果、この後の理事支部長会で支部長の意見を聞き、次回の理事会での継続審議となった。

③ 事業部、委員会メンバー変更について

資格審査委員会（環境）とCSR環境事業部に1名の委員を追加したい旨の提案があり全会一致を以って承認された。尚、委員任期の問い合わせ対し、「任期は1年で再任を妨げない」ことを確任した。

＜令和5年度第10回定例理事会（抜粋）＞

記

１．日　時：令和6年1月19日（金）13：00～14：50
２．会　場：ZOOMによるオンライン（本部会議室）

①「支部に関する規程」改定について

規程案に沿って訂正箇所を説明。特に支部役員の任期を支部総会までとし、支部役員の空

白時期を無くすことの重要性が説明された。審議の結果全会一致を以って承認された。
尚、本部役員の内規整備が必要ではないかとの意見があり、２月の理事会までに規程を見直し、次回の理事会にて議題にあげることとなった。

② 事業計画策定について

資料に沿って説明。毎年20名の正会員の減少を止めるため、推薦入会、経営士補から経営士の昇格を積極的に進める旨の説明があり審議の結果全会一致を以って承認された。また推薦入会キャンペーンを4月1日から1年間実施することにし、正会員の推薦者には3万円／人、授与（本部1.5万円・支部1.5万円負担）することが承認された。

③ プロ講師育成制度構築検討について

現在、経営士のスキルにバラつきがある事から「セミナー講師育成講座」と「セミナー講師認定制度」の発足が承認されたことの具体策として「会員実績登録シート」提出者でメンバーを公募して今後の制度設計を議論している旨の報告があった。審議の結果、今後「プロ講師育成制度」実施に向けより詳細なプログラム案の作成を進めていく事が承認された。

④ 法人会員制度構築検討について

現行の取り組みでは今期の目標達成は難しいので、改めて制度の構築を検討したい旨の報告があり、法人会員制度の再構築を行うことが承認された。

⑤ 広報戦略プロジェクト発足について

三品理事より経営士会（全会員共有）として全会員共有の広報戦略が出来上がっていないまま現在に至っているので、新たに「広報戦略プロジェクト」を立ち上げる旨の提案があり、審議の結果継続して行うことが承認された。豊政理事より広報委員会とのすり合わせをして欲しい旨の要望があった。

⑥ スモールＭ＆Ａ試行について

先に承認された「スモールＭ＆Ａ試行」について、来年度８月いっぱいは試行期間の確認があり、委員会（経営支援事業部）の事業計画も試行を前提に組むことが確認された。

⑦ 会員システムのセキュリティについて

「会員システム」のセキュリティ運用について４月開始を目標に準備中である報告があった。システム運用に際して「特権アカウント」等セキュリティ管理のチェック体制を明確にしておく必要がある旨の意見が出た。

以　上

【開催案内】

西日本ブロックとNJKのコラボ交流会　～神戸だよ！全員集合～

西日本ブロック・NJK（女性経営士の会）共催企画

西日本ブロックでは、ＮＪＫ（女性経営士の会）との共催でコラボ交流会を開催することとなりました。

各支部での取り組みを知り、相互に研鑽すること、支部を越えた会員同士の交流の場をつくり、今後の活動の活性化に繋げることを目的としております。

西日本ブロック以外の会員のご参加も歓迎しております。奮ってのご参加をお待ちしております。

日時：令和６年４月６日（土）　13：30～17：00（受付開始13:00）
終了後、会場近くの会場にて懇親会を開催します

場所：レンタルスペースフォレスト
（兵庫県 神戸市中央区 三宮町 1-5-29 まるみやビル 3階）三宮駅より徒歩3分

参加対象；全ての会員、日本経営士会に興味のある外部参加者

概要

・西日本ブロック各支部、ユニークな取り組み紹介
・NJKの取組、近畿支部・中国支部・四国支部の女性会の活躍紹介
・支部の枠を越えた交流会

参加費：①交流会2,000円　②懇親会5,000円　（当日領収）

申込方法：申込フォームに入力下さい。
https://forms.gle/84rBZqy4gR7bdGxr8

申込用QRコード

照会先: e-mail　successmoon33@gmail.com　（近畿支部　松下暢子）

推薦入会キャンペーンのお知らせ

日本経営士会では組織力強化、会員増強をねらいとして令和6年度推薦入会キャンペーンを行います。

推薦対象：推薦により経営士（正会員）として入会予定の方

紹介者　：日本経営士会　会員

募集期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日入会予定者を対象として募集します。

紹介者には紹介料として3万円をお渡しします。

詳細お問い合わせ　本部事務局　TEL　03-3239-0691

（専務理事　近藤安弘）

事業部・委員会活動

資格審査委員会からのお知らせ

資格審査委員会

資格審査委員会は、理事会決定の資格審査の要件を管理して審査する機関です。
主に、経営士（補）の推薦入会審査と養成講座修了者の入会審査および、経営士補の経営士への昇格審査を実施しています。
審査結果は理事会に付議されて、入会や昇格が決定されます。

「環境経営士」の資格審査は別の審査機関です。

＝＝

＜令和５年度　審査数中間報告＞

令和5年度の資格審査は12回開催予定のうち現在10回まで行われました。
令和6年1月段階での審査人数は以下のとおりです。

・講座受講入会経営士審査　13　名　・推薦入会経営士審査　17　名
・経営士補入会審査　2　名　・経営士への昇格入会審査　3　名

＝＝

令和5年度の活動目標である、“わかりやすく、使いやすい審査申し込み”の集大成が
３月年度末に完成します。

入会希望検討者には『 入会の手引 』 を
養成講座開催担当者、推薦者には『 資格審査実施要領 』を

ほぼ完成の状態ですが、すでに次年度の養成講座開催支部、希望者にはお送りしています。
本部事務局もしくは審査委員会にお問い合わせください。
入会申し込み（エクセル版）も改訂版がまもなく完成します。

＝＝

＜当面の資格審査委員会開催日のお知らせ＞

2/9（金）20：00～22：00　3/8(金) 20：00～22：00

＝＝

＜支部担当のご紹介＞

以下、支部担当の資格審査委員がおりますので、入会の手続きなどご相談ください。

小林　伸矢（東京・北海道）　日比　慶一（千葉・北関東）　宮高　信之（南関東）
若村　正志（中部・九州）　串田　敏美（近畿・中国）　外岡　圭子（四国）
島影　教子（埼玉・東北・台湾）　→　各連絡先は下記のメールアドレスに問い合わせください。
（新年度のメンバーは、次号でお知らせいたします）

＝＝

お問い合わせ先：　bzu03624@nifty.ne.jp　島影　教子　委員長
お問い合わせ時に、本部の田中さん（tanaka@nihonkeieishikai.com）にもCCを入れてください。

事業部・委員会活動

M&A事業検討室：スモールM&Aビジネスを構築する(2)

経営支援事業部

経営支援事業部　　横田 英滋

前号では、経営士会がスモールM&Aを支援するアドバンテージやその意義を説明しました。

今回は、日本におけるM&A市場の現状について説明します。

【高い水準で安定成長を続けるM&A市場】

2023年度　国内M&A（外国に対するM&A、外国からのM&Aを含む）の市場規模			
・件数	4015件	（前年比　▲6.7%）	
・金額	17兆9千億円	（前年比　+52.3%）	出典：マール・オンライン

長期的な数字の推移等は中小企業庁のHPでも公開。

上場しているM&A専業者の直近期の業績はいずれも好調です。

【M&Aの現状　変化の傾向と特徴】

最近のM&Aの世界は数年前とは様変わりの状況にあります。（詳細データは別途）

・M&A自体への抵抗感が減りつつある。

特に親族や社内で後継者が見つからない経営者がM&Aに踏み切り始めました。

・マッチングサイトの台頭、報酬（ミニマムチャージ）の引下げ傾向。

・抵抗感減少、低料金化により、スモールM&Aが増加基調。

用語集（2）

・上場M&A業者

日本M&Aセンター、M&Aキャピトルパートナーズ、ストライク、名南M&A、オンデック、M&A総合研究所、ペアキャピタル、ジャパンM&Aソリューション（8社、上場順）

・マッチングサイト：

安価な手数料でM&Aの売り手と買い手がネット上で自由に出会えるサイト。

若干の違いはありますが、原則自己責任による取引。急速に拡大中。

有力業者：BATONZ,、TRANBI、M&Aクラウド、M&A総合研究所　等多数

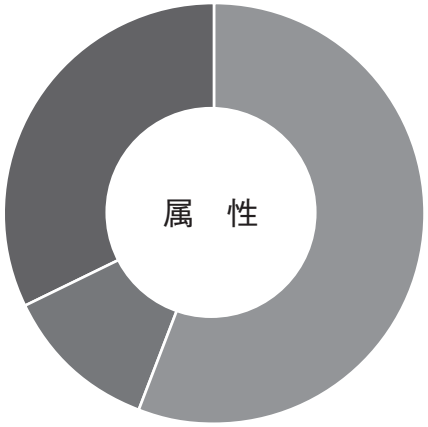
大手業者実力例：　売り手　約2万者、買い手22万者、5年累計成約数　5千件

＊私達とM&A支援をやりませんか？　希望者は事務局経由お申し出ください。

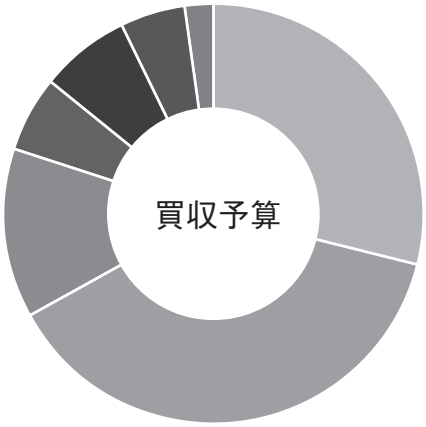
数字が立証する「事業承継M&Aに関する誤解と真実」

誤解①　M&Aは、巨大な金額が動き大企業同士の熾烈な戦いの場、マネーゲームの世界。

⇒　ごく一部の話。今や一大勢力となったマッチングサイトでは買いの主体は個人。相対的に安価な予算で取引されています。定年退職、中途退職で事業を始める、副業等で企業を買う個人は確実に増えています。（下記データ出典：BATONZ）



■ 個人：55%　■ 個人事業主：12%　■ 法人：33%

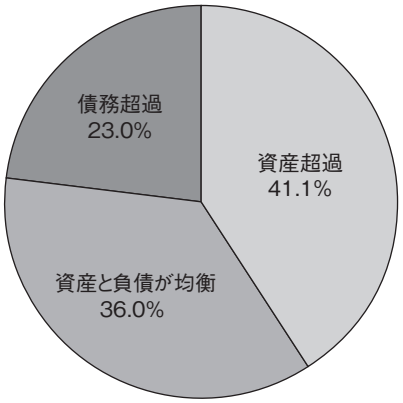


■ 300万未満：30%　■ 300万～1,000万：38%
■ 1,000万～3,000万：12%　■ 3,000万～5,000万：6%
■ 5,000万～1億：7%　■ 1億～5億：5%　■ 5億以上：3%

誤解②　問題があるからこそ売りに出されているのだろう。リスクも高いのでは？

⇒全くの誤解です。国税庁の統計では上場企業を含む2/3の日本企業が法人税を納めていません。比較すれば、事業承継対象先はむしろ黒字先が多く、財務内容も健全なフツーの企業が大半。

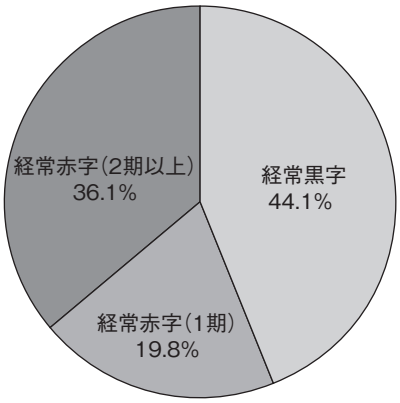
第3-3-26 図　廃業時の資産と負債の状況



(n=453)

資料：中小企業庁委託「中小企業者・小規模企業者の廃業に関するアンケート調査」(2013年12月、(株)帝国データバンク)

第3-3-27 図　廃業時の経営状況



(n=635)

資料：中小企業庁委託「中小企業者・小規模企業者の廃業に関するアンケート調査」(2013年12月、(株)帝国データバンク)

事業部・委員会活動

AMCJクロッシング・リアルクロッシング開催

AMCJクロッシング

【報告】「リアル★クロッシングin東京」を開催しました

東京でも昨日雪が降りました…、渋滞などが発生し、大変な1日でした！みなさまも体調管理などには気をつけて、本年も引き続き宜しくお願いします。

昨年7月の名古屋に続き、12月9日（土）にて「リアル★クロッシングin東京）」を開催しました。計35名の方にご参加をいただいたことをあらためて感謝申し上げます。

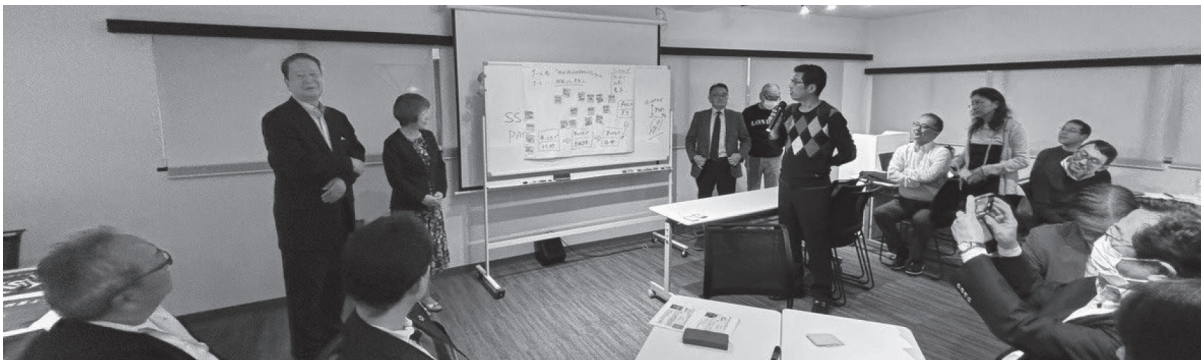
これからも、全国会員の皆さまが気軽に「ワイガヤ」ができて、お互いを知っていただける「フラットな場」を提供できるように、運営を行ってまいります。

AMCJクロッシング委員長　戸田 裕之

12月9日（土）、13：30～17：00、東京開催、ＪＲ四ツ谷駅近く

1名（東北）、4名（千葉）、1名（埼玉）、18名（東京）、7名（南関東）、2名（近畿）、2名（中国）計35名が集まっての開催でした。

名古屋開催同様に、「数年ぶりの再会！」、「Webしか会っていない方との初対面！」、開始まえから盛り上がっていました。35名全員での自己紹介、また6チームに分けてワークショップ（テーマはSDGs）を行いました。コミュニケーションを深めつつ、無事滞りなく17時に終了致しました。その後の懇親会も大いに盛り上がりました。



盛り上がったワークショップの発表

全国から集合！リアルクロッシング

◆今後のスケジュール

2023年04月14日（日）、10：00～12：00、テーマ未定、ZOOM開催

AMCJクロッシングは、【偶数月 第2日曜日 10時～】を予定しております

支部活動報告

北海道支部　新年会(1/26)

北海道支部

講演会及び懇親会（1月26日（土）15時～18時）
・黒田重雄氏（元北海道大学大学院経済学部教授、元北海学園大学大学院経営学部教授）
・テーマ　北海道における流通問題と貿易活性化策

講演する黒田重雄氏

北海道支部では、毎年1月の下旬に新年会を開催している。今年はあいにく、低気圧の影響で空路、電車や道路が欠航や不通となるなど、出席を予定していた会員の欠席も生じたが、予定どおり開催した。

講師の黒田重雄氏には、2023年の総会時に「近江商人の出自に関する一考察」の講演を頂いた。その折に、北海道の経済に関する「北海道株式会社」の話題が懇親会であり、同氏が「北海道をマーケティングする黒田重雄著」との著書も出筆されており、会員からぜひとも同氏の講演を聞きたいとのリクエストがあり、2回連続の登講となった。

冒頭、黒田氏は、北海道の過去のクラスター事業等がそれほど大きな成果を上げていないことを指摘し、また、観光事業に過度に期待することは間違えであるとのべ、産業振興のカギであるのは、流通産業（卸・小売などの販売）であると指摘し、この取り組みをどのように対応するかが重要であるとのべ、豊富な農産・水産資源を活用し、加工も含めた北海道株式会社（特別目的会社PBC）による仕組づくりを提唱されておられる。

話に聞き入る支部会

先生は、北海道の産業構造が過去の歴史によって方向図けられており、そのポイントはペリー来航の余波と、その後の北海道の統治の影響を受け、気質として①しがらみがない、②宗教心がない、③男女平等当意識が強い、④競争心がないなど（NHK世論調査所1980年）の性質をもっていると指摘し、パイオニア精神が内向きであると指摘している。

北海道の2018年の貿易収支は、輸出3,970億円、輸入が1兆4,709億円と1兆739億円の貿易赤字で、域際収支も移出入の赤字も2兆円前後（貿易と国内半々）で推移し、毎年道民一人当たり40万円の赤字となっており、この赤字体質の改善が景気回復にとって重要だと指摘し、その上で市場性のあるものを対象として、市場開拓・拡大に全力を傾ける北海道株式会社の設立を提言されている。

これらの販売基盤は、個々の事業者の努力ではなく、公的なセクターが担うべきであると力説しておられた。また、北海道株式会社は、産学官連携を前提とした組織が必要であるとのべ、事例として上げておられたのは岩手県の事例で、いわゆる第3セクター方式の株式会社である。特に、製品の販売に力を注ぐ組織、営利を獲得できる株式会社が必要だと力説されておられた。

先生の講演で印象に残ったことばは、「良い製品やサービスだから売れるのではない！（サイゼリアの創業者の成功哲学）である。北海道の企業は、一生懸命良い商品を作れば売れると」勘違いしているとの指摘であった。

北海道の企業経営にとっては、強みである原料生産を生かした加工製造が進みつつあるが、売る努力が不足しているようである。また、北海道は大消費地の首都圏や国外に輸出するときに輸送コスト面のハンデがあるが、これらの強みと弱みを踏まえた経営戦略、製品づくりの戦略、マーケティング戦略を駆使して、製品の魅力を発信し、消費者が買いたいと思う製品づくり、戦略的なプロモ―ションが必要である。

（須川清一　記）

支部活動報告

北関東支部新潟県会　第41回公開MPP

北関東支部新潟県会

報告者　北関東支部新潟県会　粉川 雅人

新潟県会　第41回　公開MPP

日　時　　2024年 1月 20日（土）　13：30～16：30（3時間）
会　場　　新潟市　クロスパルにいがた
出席者　　新潟県会　　渡辺副会長、木村副会長、西山副会長、粉川会員
　　一般参加者　勝身麻美氏、櫻井智子氏、佐藤駿也氏、八幡大地氏、
　　本間美香子氏、玉木彰氏、永田功二氏

第41回公開MPPを会員参加者4名、一般参加者7名にて新潟市クロスパルにいがたにて開催しました。ケースは「事業承継を機に体質刷新を目指す青年社長へのアドバイス」を使用し、Ａチームは5名、リーダー西山会員、レコーダー渡辺会員、Ｂチームは6名、リーダー粉川会員、レコーダー勝身氏の2チームで討議を行いました。

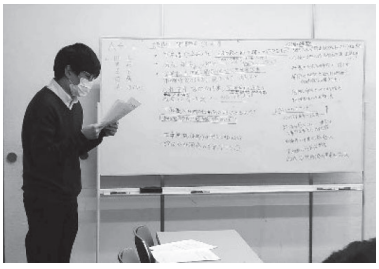
ケース概要は「創業一族の叔父から事業承継した地方の老舗建設会社の3代目社長。承継を機会に今まで創業者一族内で行ってきた経営のやり方や同族以外の名ばかりの役員や取締役会の在り方の見直し、今後の県外の大手ゼネコンとのビジネスの進め方、新規工法の事業化などやりたいことが多岐にわたってある状況です。ケースの設問としては「組織の問題点と今後の課題」「役員陣を機能させるために取締会でレクチャーする依頼を受けた。レクチャーのポイントは何か」の2つです。

Ａチームはケース内容の第一印象、感想から問題を紐解いた結果、ビジネスモデルやそれに見合った組織の役割や人選などについてと社長自身への経営者教育の必要性などに関して討議を進めていきました。

ケースに記載されていない過去の経緯や登場人物の心理背景等の状況整理を行い、取締役会構成の人物の役割や課題、今後の市場状況の変化なども整理した後、社長の意思をもっと具体化し役員にも如何に問題意識を共有することができるかなど討議しました。

討議終了後は２チームとも一般初参加の佐藤氏、八幡氏が発表され質疑応答を行いました。

ＭＰＰ終了後は会場を移し、新年会を開催し会員や一般参加者との情報交換と懇親を深めた有意義な一日となりました。


Aチーム佐藤氏　発表風景

Bチーム八幡氏　発表風景

Bチーム　討議風景

支部活動報告

千葉支部活動報告

千葉支部

12月、1月の千葉支部の幹事会・運営委員会は、引き続きハイブリット方式により開催しました。

■活動内容

①12月幹事会・運営委員会・３Cの会

開催日時：2023年12月16日（土）13：00～17：00

第1部中央公民館（第9集会室）、第2部海神公民館（第1集会室）（Zoom併用）、年末懇親会

【第一部】「幹事会・運営委員会」

（1）12/15の理事会、理事・支部長会報告

（2）PJ-Cでの、中期事業計画の基本戦略や
　　プロ講師養成講座、法人会員などの検討模様

（3）来年度の事業計画への反映事項

（4）その他

（3Cの会の様子）

【第二部】「３Cの会」

テーマ：「スマート仕事術」

－ ChatGPTを使って超速「売れるコンテンツ」づくり－

講　師：千葉支部　鈴木 伸一 副支部長

◎生成AIを使い中小企業の業務改革を実現

中小企業のお悩みであるデジタル化への取り組み・効率化、営業マニュアルやシナリオの作成、営業研修やトレーニング、総務事務、営業事務の効率改善などに活用。

◎SGE(Google Search Generative Experience)について

使い方の学習。SGEの登場により、検索結果で、リスティング広告を目にしないため、検索経由のサイト流入量が激減すると予測されている。

生成AIの進化は日進月歩。最新情報を知ることが必要。早期積極活用することで取り残されないようにしましょう!

② 1月幹事会・運営委員会・３Cの会

開催日時：2024年1月27日（土）13：00～17：00　第1・2部中央公民館（第9集会室）（Zoom併用）

【第一部】「幹事会・運営委員会」

（1）1月19日の理事・支部長会報告

（2）法人会員制度・プロ講師育成講座・ホームページの改善PJと結果

（3）春の経営士養成講座の集客について

（4）来年度事業計画について

（5）来年度新執行部について

（6）その他

（幹事会･運営委員会の様子）

【第二部】「3Cの会」

テーマ：「スマート仕事術」

－ ChatGPTを使って超速「売れるコンテンツ」づくり－

講　師：千葉支部　鈴木 伸一 副支部長

鈴木副支部長より、同テーマにて今年度４回目のビジネススキルアップ講座を開催した。

◎2024年大胆予想 ＡＩをめぐる動き

予測①小さなAI（小規模LLM）とその組み込み製品（車載AIやAI搭載家電など）の増加。
予測②AIビジネスの曲がり角　有償化の波（高額な学習コストから有償化が進む）
予測③GPT-4.5登場、まったく新しいGPT5.0（GPT5.0はマルチモーダルで稼働）
予測④実用的ファインチューニング（学習済みモデルに、新しいデータセットで追加学習）の実現
予測⑤Apple、Amazonの巻き返し（Apple GPT、Alexa AIの進化）

今後、使えるプロンプトなどを千葉支部で議論しながら、儲かるにはどうすべきか検討をしたい。

（写真提供：金子昌夫幹事、記：須藤英幸）

支部活動報告

埼玉支部報告書12・1月

埼玉支部

今年度は、埼玉支部を根本から立て直すことが主たるテーマです。ここ数年、支部主催の研究活動などが行われておらず、セミナーを企画しても会員が数名しか参加しないという状況が続いています。そこで6月に、有志によるプロジェクトを立ち上げました。収益事業や研究活動など、会員の満足度を高める活動を企画し、取り組んでいこうとしています。支部間交流会などもできればと思います。
全国の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

【12月幹事会】Zoom 開催　日時：12月8日（金）19：30 ～ 21：00

出席者：鈴木支部長、春原顧問、角張、花井、佐々木、楠本、江上
1．前月の決定事項の進捗について　2．報告、連絡事項　3．全国研準備について　4．その他確認事項
1）15日（金）理事、支部長会情報共有　次期経営士養成講座（東京支部主管）の準備ほか
　法人会員制度の検討チームの発足　SMCにて経営士会の戦略、中期事業計画検討中
2）全国研埼玉大会開催準備について　全国研開催目的の確認～全国研ガイドラインより～　準備の進め方
3）今後の開催日程と内容について　会員のコンサルノウハウを毎月、セミナー形式で共有し合う。
　プレゼン後、活用方法等について意見交換を行う。

【12月例会】Zoom 開催　日時：12月22日（金）19:00 ～ 21:00

1．会員報告　2．質疑応答、意見交換
各会員の経営士としてのノウハウを生かすための得意分野の講座開催
1）報告者　インサイトから始めるスイーツ商品企画　ＤＯＯＲＳ合同会社 代表社員CEO 花井 秀年氏
2）報告者　中小企業支援の業務について　中小企業診断士　小澤　徹氏

【1月幹事会】Zoom 開催　日時：1月5日（金）19：30 ～ 21：00

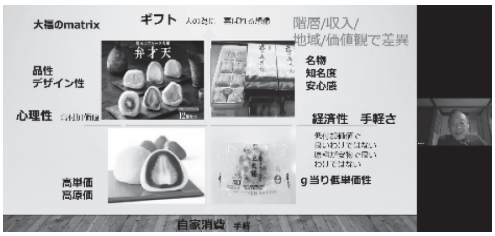
鈴木支部長、花井、楠本、小澤、佐々木、小林、江上
1. 2023年度活動計画と総括　2. 2024年度予算計画策定について
3. 2024年度の活動体制について（活動方針策定に向けて）　4. その他確認事項
①2月に役員改選がある予定：支部長は、推薦と選挙　法人会員制度検討会　プロ講師育成講座検討会
②会計担当　（副支部長代理報告）12月度収支について、仕訳帳および入出金明細にて確認
③広報担当　（楠本幹事）経営士会のHPを修正するプロジェクトが発足報告
④2023年度活動計画と総括について～残りの期間で何に取り組むのか～
⑤その他 今後の開催日程と内要

【1月例会】Zoom 開催　日時：1月26日（金）19:00 ～ 21:00

1．各会員報告　2．質疑応答、意見交換
各会員の経営士としてのノウハウを生かすための得意分野の講座開催
今回は他支部の方々の参加があり、質疑応答も多数あった。
1）報告者　株式会社実輝 代表取締役 楠本 隆志氏　私がやってきた経営コンサルティングの範囲
2）報告者　株式会社WILL 代表取締役 角張 康夫氏　中小企業の人材採用課題と支援策について

【1月臨時幹事会】Zoom 開催　日時：1月28日（日）10:00 ～ 12：00

議　題：次年度活動内容と予算案についての検討（次年度運営体制も含めて）
1．次年度予算の内容と部門　　2. おもな準備内容



12月会員報告

東京支部活動報告

東京支部

東京支部では、毎月定例幹事会（役員会）をZoomオンラインにて開催しています。毎回の議題は、支部活動（セミナー・イベント等）の検討・報告・進捗確認、理事会報告、会計報告、支部入退会者の確認等です。支部運営に携わってみたい東京支部会員の皆さまは、随時募集をしていますので、お近くの支部役員にご連絡ください。

東京支部 支部長 大蔵充夫

2023年１２月度　東京支部　役員会

12月22日(金)、20：00～22：00、Zoomオンライン開催

議　題

1. 理事、支部長会　…支部規定見直し案の説明　2. 新春セミナー　…2024年早めの開催予定
3. MPP研究会　…2024年1～2月の開催予定　4. 東京支部クロッシング　…年4回程度で検討
5. インボイス関連　…本部見解の説明　6. 入会退会　…直近の入会者、退会者の確認
7. 日程…次回、次々回の役員会　日程調整

東京支部クロッシング『あつまれ～Xmasナイト！』

12月16日（土)、19：30～21：30、Zoomオンライン開催

第2回『あつまれ～Xmasナイト！』を開催しました！

主な内容

●「こんばんは」自己紹介コーナー

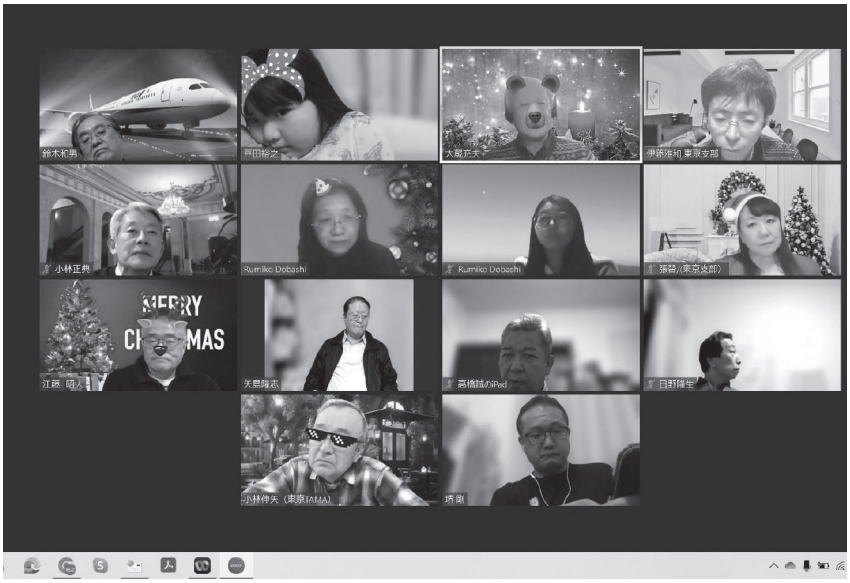
現在の仕事、趣味、PR、その他自由な発言ありました

●乾杯！～今年の出来事を語ろう

今年の出来事をテーマに気軽にフリートークをしました

●クリスマス　de　Zoomビンゴ大会

オンラインビンゴ！大盛況、景品はアマゾンデジタルカードでした



（東京支部担当　土橋）

支部活動報告

南関東支部・かながわビジネスオーディション2024　協賛活動

南関東支部

かながわビジネスオーディションとは、神奈川県及び公益財団法人神奈川産業振興センターが主催し、創業・新分野進出などにチャレンジする事業者を応援するもので、今回で28回目を迎えます。

神奈川県は早くからSDGsを推進しており、同オーディションにおいても社会課題解決に貢献する優れたSX、GX、DX事業が選抜される傾向が強いものとなっております。**SDGsやサステナブル経営の社会普及においてこの種のイベントは、これに臨む小さな事業者の事業推進を支援するものとして有効な機会です。**加えて神奈川県内の多くの中小企業支援機関や金融機関が後援・協賛するこのオーディションへ、当会（神奈川経営支援センター）も協賛参加することは、県内のステークホルダーに対する当会の認知度向上を図る貴重な機会を得ることにもなります。

半年に及ぶ選考期間を経た最終選考会が、令和6年2月8日に、国内最大規模の中小企業展（テクニカルショウヨコハマ）に併行して同会場施設内において開催されました。

【最終選考会にエントリーされた事業者と事業テーマ】

順番	ビジネスプラン名	企業名
①	こどもの食物アレルギーを無くし、親子が安心して食べて、遊べる社会を目指す。	株式会社ビー・ケース
②	電気削減ポイント可視化ツール　ポータブル通信電流計　エニマス	株式会社コバヤシ精密工業
③	上下水道インフラに依存しないトイレ洗浄水循環システム、e6sシステムの社会実装	株式会社e6s
④	「低炭素化対策と省エネ実現」～エネルギー回生発電・蓄電システム～	株式会社中谷製作所
⑤	AIの擬人化や規制対応を実現する次世代画像解析アプリケーション	Life Analytics株式会社
⑥	地域共通リユース容器シェアリングサービスMegloo（メグルー）	株式会社カマン
⑦	難病/上肢障害患者および高齢者の日常の口腔ケア支援	株式会社Genics
⑧	モルト粕アップサイクル再生紙「クラフトビールペーパー」	株式会社kitafuku
⑨	StockBase～企業向けの物品活用プラットフォームで循環型社会を実現～	株式会社StockBase
⑩	子供専用相乗りタクシー配車アプリの提供により「送迎ストレスゼロ社会」へ	hab株式会社

今回128社がエントリー、最終選考に残った10社は、どれもが社会課題の解決を事業目的として掲げたものばかりでした。

当センターで表彰した事業者は、需要の伸びる飲食店のテイクアウト容器をリユース＆シェアリングサービスとして展開する、株式会社カマン様です。記念品（小田原の中小企業が製造する、箱根間伐材をアップサイクルした掛け時計）の他、当会で支援可能な補助金申請支援や各種経営相談等の経営支援サービスパッケージを副賞として進呈いたしました。

【株式会社カマン　代表 善積真吾様と記念撮影】

神奈川経営支援センターにおいては、オーディション表彰機関や参加事業者等との交流を図り、社会的インパクトマネジメントの視点から事業支援機会の開拓を目指してまいります。活動にご関心のある会員は、神奈川経営支援センター役員会までご連絡をお待ちしております。

（Mail:　keieishikanagawa@gmail.com　　文責　小池基美男）

支部活動報告

中部支部最近の活動報告

中部支部

◆令和６年賀詞交歓会開催

開催日時：2024年1月13日（土）　14：30〜17：30

開催場所：㈱中日メディアブレーン研修室

総合司会：江口敬一

第一部【新年挨拶】　支部長　三品富義

支部の活動内容として、メッセナゴヤ、経営士補養成講座、環境経営士養成講座、スキルアップ塾、支部研究会、エコステージそれぞれの活動実績について報告がありました。また、1月開催の経営士補養成講座、2月開催の環境経営士養成講座への協力要請と、会員各位のリカレント学習としての参加を期待したいとのご挨拶をいただきました。

【会員の新年度への抱負】

会員各自が、自己紹介と今年一年の抱負を発表し、互いの展望を語り合いました。

第二部【新春講演会】　㈱さくら総合オフィス代表　竹内美土璃様

「FPの立場から考える社長の相続と事業承継」と題して、ご自身が関わった案件を基に経営者の相続と事業承継に対する対策の必要性について講演していただきました。

相続の現状から、遺言作成の意義と相続対策の重要性を説明され、特に経営者である社長の相続には事業承継の問題が伴うことから、親族だけではなくステークホルダーでもある従業員の生活のことも念頭に対策を行う必要があるとのことです。

そして、講師が提唱する「笑顔相続」を実現するためには「こころの相続」と「財産の相続」の両方を実現することが大事であると説きます。その実現のためにも十分に対策を練った遺言の作成と、社長の想いをしたためた付言を添えることが最も大事であると力説されたことが特に印象的でした。

会員は経営士としてクラアント企業の社長と接する機会が多いことから、事業承継の相談を受けることもありますので、クライアント企業の継続的発展につながるような適切なアドバイスが求められます。今回の講演が、そのような場面で有用となる情報習得のいい機会になったものと期待したいです。

第三部【懇親会】18：00～

会場を「CRUST」に移し、講師を交えての懇親会を開催しました。コロナによる制限が解除されたことから、開放的な交流の場となり会員相互に親睦を深めることができたのではないでしょうか。

◆経営士補養成講座終了

中部支部においては第6回目（毎年1回実施）となる経営士補養成講座を、中日メディアブレーン研修室において、2024年1月14日（日）～28日（日）までの土日計5日間、延べ30時間にわたり実施いたしました。

今回の受講生は、金融関係、秘書、IT関係、介護福祉関係の４名の方々でした。講座内容は、経営コンサルタントに必須の経営、人事、生産、財務、営業、情報など６分野にもおよびますが、ワークを交えながらの実践的な講義内容を通して、コンサルタントとしての立場や視点を学び、十分に理解されていたようです。

（経営士補養成講座チラシ）

（受講生とスタッフ一同）

今回受講された皆さんは、大変優秀な方ばかりで、メモをとりながら積極的に多くの質問をされたり、受講生同士でも活発な意見交換をされるなど、熱心に受講されている姿勢が印象的でした。

なお、受講された４名は全員、日本経営士会の「経営士補」登録を申し込みされました。今後の活躍に大いに期待したいと思います。

支部活動報告

近畿支部活動報告　近畿支部　MPP開催

近畿支部

近畿支部では、1月最後の週末、2日間に渡りMPPを開催しました。

開催にあたり、近畿支部以外の会員や非会員への案内を積極的に行い、2日間で合計13名（うち非会員4名）、累計34名が参加。フル参加者は、2日間で集中的に４つのケースに取り組みました。各地から年齢層、職業、様々な立場で共通のケースに取り組み、MPPを通じた学びや新しいご縁、沢山の交流が生まれ、大変有意義な機会となりました。

両日とも、MPP終了後、有志にて懇親会を開催し、更なる交流を深めることができました。

1.　概要

◆　**1日目**

・日時：2024年1月27日（土）　①午前の部　9：30～12：30　②午後の部　13：30～16：30

・会場：マイスペ24芦屋（兵庫県芦屋市）

◆　**2日目**

・日時：2024年1月28日（日）　③午前の部　9：30～12：30　④午後の部　13：30～16：30

・会場：エルおおさか（大阪市中央区）

◆参加者（全日程）

近畿支部　：國廣支部長　上田会員　北原会員　二宮会員　松下会員　横山会員

南関東支部：近藤専務理事　中国支部：豊政業務執行理事　四国支部：岩井副会長

非会員　　：石部大史氏　榊由美子氏　丸川智子氏　安福健也氏

（1日目　集合写真）

（2日目　集合写真）

2.　詳細

①　**1日目 午前**　ケース：「事業承継と後継者教育」

・リーダー：近藤専務理事　レコーダー：二宮会員　　参加者8名

精肉販売店の三代目社長候補への「経営者としての教育カリキュラム」の提案について討議した。

②　**1日目 午後**　ケース：「老舗印刷会社　社長へのアドバイス」

・リーダー：岩井副会長　レコーダー：松下会員　　参加者9名

家族的経営、地域密着経営に注力している社長へ将来に向けた経営アドバイスを討議した。

（午前：二宮会員発表）

（午後：松下会員発表）

（報告書作成風景）

③　**2日目 午前**　　ケース：「中小パンメーカーの組織・人事の課題と業績拡大の助言指導」

・リーダー：近藤専務理事　　レコーダー：豊政業務執行理事　　参加者7名

中核都市のパンメーカーの業績回復のための戦略策定にあたり、組織図、売上分析を行った。

④　**2日目 午後**　　ケース：「倉庫業Ａ社の経営革新による事業再建」

・Ａチーム　　リーダー：北原会員　　レコーダー：上田会員

・Ｂチーム　　リーダー：岩井副会長　　レコーダー：松下会員　　参加者計10名

首都圏に近い地方中小都市にある倉庫業の事業継続のための短期・中期・経営革新の計画立案を討議。全体自己紹介の後、2チームに分かれて討議を行う。発表は再び合同で実施。他チームが出した案の中に、自分のチームでは着眼していなかった案が出てきたことで更に学びが深まった。

（午前：豊政業務執行理事発表）

（午後：Aチーム　上田会員発表）

（午後：Bチーム　松下会員発表）

3.　参加者の声

「素晴らしく充実した時間でした。新たな出会いと皆さまの暖かいご配慮に感謝しています。」

「半日でしたが、普段使わない頭をフル回転させ、楽しませて頂きました。ケースや構成メンバーによって最終着地が異なる点が面白いです。」

「色んなご意見を聞けて楽しかったです。大変勉強になりました」（非会員）

「他業種のプロの知見など大変学びが充実していました。また参加させて頂きたいです。」（非会員）

4.　國廣支部長の所感

ＭＰＰ開催に際し、本部からも多大なご人力を賜りありがとうございました。今回のＭＰＰでは、参加者の意見が活発に発せられた大変有意義な時間でありました。特に、外部の参加者の方々のご意見も誠に良い意見であり、経営士としての素質を感じております。今後のＭＰＰ研修について支部として応援したいと考えております。

以上

（文責　近畿支部 幹事　松下暢子）

支部活動報告

中国支部は活動を通して会員増強を目指す

中国支部

2023年10月の日本経営士会全国研究会議のオンデマンド発信が終わり、全国大会の後処理が無事終了いたしました。

中国支部では、大会でご縁をいただいた方々や団体と共に、地域社会からのご要望に合わせた柔軟な対応ができるように、チームの再編成を行う予定としています。

組織は、**中核となる常任幹事10名と監事2名**が軸となります。加えて新たに若き活躍する8名の幹事を任命、大学研究者を含む他分野で活躍される会員5名を相談役で配置いたします。多様化する社会からの要望に応えられるために、人財の層を厚くして、組織体制を強化します。

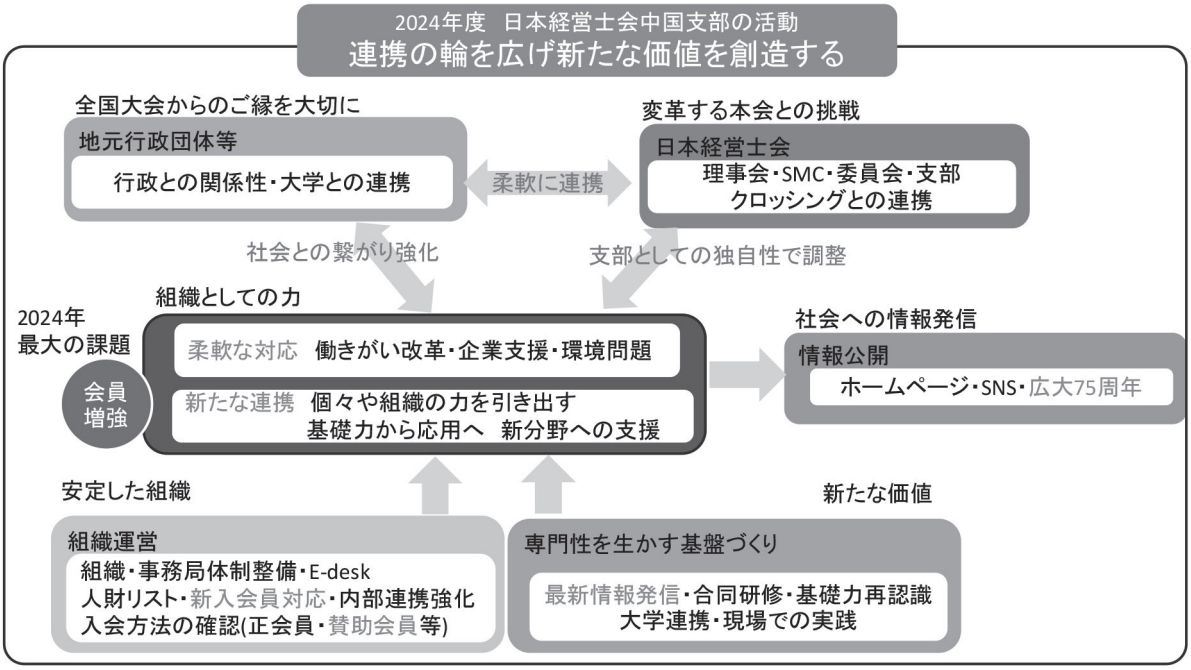
経営士会の会員同士が必要に合わせて柔軟にチームを組み、自分の本業である仕事に経営士会を巻き込み、後ろ盾にしてこそwin-winの関係となり、相乗効果を発揮することができます。それこそが、経営士会に入会するメリットであり、会としての存在価値です。

今年は大学連携の新たな年になります。地元の広島大学は75周年（旧制含めると150周年）となるため、数々の事業が予定されています。中国支部としても後援団体として参画し、若き人財とのかかわりを深くしたいと考えます。

これからのご縁は、会員に固着せず、賛助会員での始まりでもよしと割り切り、活動の中から経営士会入会の価値を認めていただき、順次太い絆に成長させていきたいと思います。

中国支部は、現在においても、各部署で研修・事業を実施しているため、一か月に4-5回の研修・集会・打ち合わせが行われています。今年は、より目的に合わせた事業にするため、少人数で知識を高める研修を継続しながら、外部を巻き込む人が集まる機会を意識的に企画する予定です。

若き精鋭達が、社会で活躍するワクワク感を大切にしながら、仲間を増やすことを最大の課題として2024年度に臨んでまいります。



（中国支部　小原啓子）

会員投稿

企業活動と脱炭素・カーボンニュートラルの実現

—CO2排出量の数値化・可視化—

南関東支部長　経営士　戸部　廣康

中東アラブ首長国連邦（UAE）ドバイで開催されたCOP28（2023.11.30～12.13）は終了した。しかしEU気象情報機関コペルニクス気候変動サービス、及び世界気象機関WMOの分析結果によれば、昨年2023年の地球の平均気温は、産業革命以来最高の気温で、産業革命当時の気温より、既に「1.48℃」上昇しているとの計算結果である。この値はCOP21・パリ協定の「産業革命前の気温から1.5℃の上昇に抑える」の実現に、赤信号が点灯した事を示している。即ち、2050年迄に「排出CO2量－吸収CO2量＝0を実現する」という「カーボンニュートラルの実現」は、絶望的になって来た。

しかしながら、人類は「脱炭素・カーボンニュートラルの実現」を諦める訳には行かず、世界各国及び企業は、脱炭素・カーボンニュートラルの実現を、2050年までに達成する事が求められている。

その為には先ず、「CO2排出量の数値化・可視化」が必要となってくる。

1．製品のライフサイクル：

製造業においては、「原材料の生産・研究開発及び製品の製造・納品（輸送）及び使用・リサイクル又は廃棄」という「製品のライフサイクル」における各段階に於いて、CO2の排出が行われる。これを「川の流れ」に例えて図示すると、以下の図1のようになる。[1)]

図１．製品のライフサイクルとＣＯ２の排出

上　流		中　流（自　社）		下　　流		
↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
ＣＯ2	ＣＯ2	ＣＯ2	ＣＯ2	ＣＯ2	ＣＯ2	ＣＯ2
資源採掘➡	原料生産 ➡	研究開発・製品の製造販売 ➡		使用・消費 ➡	リサイクル・廃棄	
スコープ３		スコープ１、スコープ２		スコープ３		

2．スコープ（Scope）1、2、3

CO2の排出に関し、上流（原材料等のサプライサイド）・中流（自社）・下流（デマンドサイド）に分類する。更に自社に関し、直接（燃料の燃焼時）排出するCO2と間接（電気・ガス等の使用時）排出するCO2に分類する。これら2つの分類を組み合わせて、以下の表1のように、スコープ1、2、3が設定される。[1)]

表１．上、中、下流の区分とスコープ１～３の対応

上、中、下流の区分	スコープ
上流（サプライサイド）	スコープ３
中流：自社の CO2 直接排出分	スコープ１
中流：自社の CO2 間接排出分	スコープ２
下流（デマンドサイド）	スコープ３

3．燃料（重油、灯油、ガソリン、天然ガス等）使用料及び電気使用量から、CO2排出量への換算方法

例えば、工場で毎日メタンガスCH4（1モル：16ｇ；標準状態において22.4リットル）を完全燃焼して利用しているとすると、化学（酸化）反応式は下図2のようになる。

図２．メタンガスＣＨ４（１モル）の燃焼反応式

ＣＨ４	＋	２Ｏ２	➡	ＣＯ２	＋	２Ｈ２Ｏ
16ｇ		64ｇ		44ｇ		36ｇ

図2の反応式から、44ｇのCO2が排出される。年間では、44×365ｇのCO2排出量となる。

この値が、自社のスコープ１へ算入される。実際には、揮発油（ガソリン）・軽油・天然ガス・LPガスには決まった「CO2排出原単位」があり、2023年度版では、例えば揮発油は2.29（ｔ-CO2/kl)、天然ガスは1.96（ｔ-CO2/千ｍ^3）と決められている。[2)]

又、例えば、工場で毎日10kWhの電力を使用するならば、年間10×365kWhの電力を消費する事になる。電力会社から、「1kWhの電力生産によるCO2排出量」を得る事が出来れば、年間のCO2排出量が解かり、自社のスコープ2へ算入される。実際には、契約している電力会社や契約メニュー・年度等により「CO2排出原単位」が異なる。2022年度の東京電力エナジーパートナーの場合、0.000447（ｔ-CO2/kWｈ）だが[3)] 再エネ100％のメニューの場合は１kWh当りゼロとなる。Apple、ソニー、トヨタ自動車等の大手企業は、部品調達の取引先に「再エネ利用の要請している」との事である。[4)]

４．スコープ3について

スコープ3（上流：サプライサイド）は、サプライチェイン企業のスコープ1及び2に相当する。又、スコープ3（下流：デマンドサイド）は、リサイクル企業のスコープ1及び2に相当する。従って、上記の３及び４を実施すれば、スコープ1、2、3におけるCO2排出量が明らかになり、CO2排出量の数値化・可視化が可能になる。又、製品別にCO2排出量を数値化・可視化すれば、「製品のライフサイクル」におけるアセスメントも可能になる。

スコープ3には15のカテゴリー分類があり、サプライサイド(上流)に8項目、デマンドサイド(下流)に７項目が記載されている。[1)] この15項目を以下に述べる：①購入した製品・サービス、②資本財、③スコープ1や2に含まれない燃料及びエネルギー活動、④輸送や配達(上流)、⑤事業から出る廃棄物、⑥出張、⑦雇用者の通勤、⑧リース資産(上流)、⑨輸送や配達(下流)、⑩販売した製品の加工、⑪販売した製品の使用、⑫販売した製品の廃棄、⑬リース資産(下流)、⑭フランチャイズ、⑮投資。

スコープ3に於ける脱炭素化の実例として、「テレワークやサテライトオフィスによる通勤時のCO2排出削減」、「プラスチックではなく紙容器にすれば、焼却時にCO2が出ても、植物由来なのでカーボンニュートラルになる」等がある。[4)]

スコープ毎の、或いは製品毎の脱炭素化については、多様な工夫が可能であり、新しい技術も必要である。人類の英知を結集して、脱炭素化に取り組む必要がある。

語句の説明

★　排出原単位：経済活動当りの温室効果ガス（例えばCO2）排出量の事である。「排出係数」とも呼ばれている。温室効果ガス排出量を算定するには、①実測値を算定する方法、或いは②排出原単位を利用する方法がある。排出原単位の表示法に関しては、液体の場合にはｔ-CO2/kl、気体の場合にはｔ-CO2/千ｍ^{3}を用いる。

★　「炭素強度」又は「CO2強度」：国内で排出されるCO2量を、一次エネルギー総供給で割った値である。この値は「炭素集約度（carbon intensity）」とも呼ばれている。国のエネルギー構成や転換技術の効率によって値が異なり、原子力発電や再生可能エネルギーの比率が高いほど、又高効率技術を導入する程、小さな値となる。企業における「炭素強度」はスコープ1、2の排出量を売上高で割ったもので、t-CO2eq/百万ドルで算出する。数値が低いほど、炭素強度が強い事になる。ESG投資に於いては、「炭素強度の高い企業への投資を促す」という基準の一つとなる。

★　炭素会計（カーボン・アカウンティング）：各企業が、CO2等の温室効果ガスの収支を開示・記録する会計。報道によれば、財務情報に加えて炭素会計も、有価証券報告書に記載・開示する事が義務付けられる見通しとの事である。

参考文献

１）環境庁：「排出量算定について」サプライチェイン排出量全般（１）サプライチェイン排出量概要資料（pdf版）（2023年）

２）環境庁：算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧（参考1）燃料の使用に関する排出係数（別表1×別表2×(44/12)）揮発油及び天然ガス（2022年）

３）環境庁：電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）－R2年度実績－R4.1.7　環境庁・経済産業省公表（2022年）

４）「脱炭素のビジネス戦略と技術がこれ１冊でしっかりわかる教科書」本橋　恵一　著、発行所：株式会社　技術評論社、2023年5月6日初版・第1刷発行

先哲研究会令和６年２月例会

東京支部　石井政夫

―　日本遺産「さがみ大山まいりと祈りのみち」について　―

日本遺産「さがみ大山まいり祈りのみち」がようやく出版できました。コロナ禍の3年間と、その後の出版までの1年間をかけ、街道書籍で実績のある（株）風人社のご協力を得て発行に至りました。私の武士政権が祈願した「四千年のパワースポット霊峰大山:銀の鈴社2016」、俳句のゆりかご「相州大山俳壇の歴史と句碑・歌碑:ディク2018」の相模大山三部作の最終書です。本の解説と贈呈した各地の首長、施設などの書評を紹介します。

本書は他国や関所を越える事が難しい江戸時代に、農村の人達が「大山詣り」のために「大山講」を組織し、毎年のように大山にお参りする祭事が何故、江戸幕府や関東各地の藩や陣屋が許したかということです。きっかけは徳川家康の「二度と戦乱の世に戻さない」という決意のもとで慶長10年（1605）大山寺を幕府祈願寺にした。春日局の「家光を将軍に」の祈願成就で寛永17年（1640）「関東一円の農民に大山信仰を呼び掛けた」ことが毎年の祭事として堂々と行われた。「誕生間もない徳川政権の基盤である農本位政策で、天災や飢饉による農民一揆を起こさせないための重要な施策の一つ」でした。農民側でもお米の作り方や出来高、生糸の生産、大麦、イモ類などの栽培情報の共有、更に職人、商人には鍛冶や織物や土地の物産の情報、販売、町民の娯楽などの情報ネットワーク造りなのではないでしょうか。為政者と農民、職人、商人などの思惑の上に大山講檀家73万戸数が成り立っています。江戸は特殊な職業の講以外はお構いなしで実数は不明です。檀家の数は神仏分離、廃仏毀釈の大山寺から阿夫利神社への移行の混乱期で、明治4～6年の権田直助編簿「廻導記」の調査（御師121家・現在24家）で、檀家名簿は門外不出の秘事の為、戸数記載のない村も多い。補足資料として県立伊勢原高校元教頭有賀密夫氏の1966～1968の調査・研究「大山門前町の地理的研究」を参考に編集した大山講檀家の「大山まいり」の足跡を辿りました。

福島第二原発の熊川村から陸前浜街道、水戸街道と進み。奥州街道は栗原市若柳の石尊神社から、別当八大坊の祖先で源義経旗下の佐藤忠信の飯坂大鳥城を経て。三国街道は新潟、南魚沼郡から三国峠を越えて。谷街道を信濃下高井郡金井から岩船地蔵を進み善光寺を経て、信濃更級郡から北国街道を進み。千国街道を信濃南安曇野郡池田町から松本巾上の犀川渡船場石尊大権現碑を進み。中山道は塩尻宿から和田峠を越え、佐久を抜けて碓氷峠を越え。甲州街道は下諏訪宿から甲府を経て。伊勢松坂の白猪山石尊神社から伊勢街道、東海道を進み。危険な海を青ヶ島、八丈島から船で下田に向かい天城街道を進み。各地の街道から大山八街道を進み大山に向かいました。街道には石尊神社、石尊大権現碑、不動明王坐像、雨降山（あふりやま）灯籠、大山阿夫利神社、石尊山、雨乞山、大山などが残り、石尊まつりには地域の文化的価値が見られます。本書は三つの目的をもって書きました。一つは大山に関係する偉人達の祈りが「人生百年時代」の私達の生きるヒントになること。二つ目は各地の神社や石碑、お山などの石尊まつりや大山灯籠祭りがSDGsの持続可能地域社会の町おこしや地域社会システムの維持となっていること。三つ目は各街道の檀家数や大山講の痕跡が江戸時代村々の研究や学生の観光研究対象の参考に成ればとの思いで書き上げました。

本書の対する評価

1, 大山阿夫利神社目黒仁宮司：神社職員始め関係者一同重要書類として活用
2, 栃木県福田富一知事：「人が育ち地域が活きる未来に誇れる元気な栃木」にご理解を感謝
3, 埼玉県大野元裕知事：史跡が多い埼玉県として、早速拝見されていただきます。
4, 栗原市佐藤智市長：毎年3月に行われる「石尊神社・火伏まつり」は地域の大切な行事
5, 平塚市落合克宏市長：地域社会の歩みを振り返る際に参考に
6, 秦野市高橋昌和市長：労作を有難う、蓑毛は大山の西の玄関口です、よろしく。
7, 川崎市大山街道ふるさと館：重要な資料であり、当館の蔵書として保存、閲覧
8, 県立秦野ビジネスセンター：当館の図書コーナー配架また内部資料として活用
9, 我孫子市史研究センター近江礼子先生：足で調べた研究の成果です。
10, 山城ガールむつみ（宇野睦）：中身の濃い素晴らしい著書
11, 東海教育研究所：史料・史料価値の高い著書のため学園史資料センターに保管
12, 東海大後援会後藤会長：本を参考に故郷の福山市歴史資産を残したい
13, 東京理科大学スペースシステム創造研究センター博士藤嶋所長：素晴らしい書物
14, 神奈川工科大学石田理事：いつも行動力に感動しています。
15, 神奈川工科付属図書館：図書館への協力と支援に感謝します。
16, (株)スーパーシリコン研究所元所長：明確な3つの目的が柱。他分野の労作に敬意
17, 大学バレーボール成田理事：東海大女子監督時代に毎正月に、1年の健康と必勝を祈願
18, 岡山県井原市観光交流課：行動力に感服、何時も新幹線の車窓から優美な山容を望み
19, 飯田通商会長：本の重さが歩んできた道のりのように感じられただ圧倒されます
20, 横浜ハローワーク元所長：家宝として代々大事につないでいく
21, 長瀞養浩亭：「心のお米」を拝読、只々感服。大山阿夫利神社にお尋ねしたい
22, 西八朔極楽寺大僧正：それは、それはご苦労をおかけした貴重な本です。
23, 井原市松本夫妻：日本各地を巡り苦労した御本ですね。
24, 山梨市三富白龍閣：御坂街道の最奥の石尊阿夫利神社を守っていきます。
25, 伊豆大島医療センター事務長：伊豆大島と大山講の貴重な資料を閲覧します。
26, 福島県いわき市住宅会社：磐城で3回お会いしましたが遂に完成ですか。
27, 清水市サービス会社：近くに大山講の檀家があります。興味があるようです。
28, 福島県伊達市種苗販売：飯坂温泉や霊山も関係しているようなので尋ねてみます。
29, オプテック社長（東海大名誉教授）大原博士：専門以外でこれだけ研究した人はいない。
30, 笛吹市奈良原：奈良原阿夫利神社の氏子の人達と共有します。
31, 大山森林組合：大山がこんなに広い範囲で活動され、まだ社寺が残っているのに驚く。
32, 大磯鴫立庵：鴫立庵の創世紀以来、大山・伊勢原の俳壇との繋がりの歴史として展示
33, 大山観光協会：大山ケーブルカー前の資料展示に並べます。
34, 大山茶屋きくや：前不動前の店も兄が亡くなり、廃棄を進める前に歴史資料を有難う
35, 神奈中交通：内助の奥さん、娘さん、お孫さんの理解無くしては遂げられません。

第55回経営士全国研究会議広島大会
最優秀論文

BSC：自律分散型組織の構築と新しいリーダー像
(―ひとり一人が生き甲斐を持ち、力を発揮できる組織づくりへ―)

著作者　経営士　松下 暢子（会員番号５６４０）
近畿支部

要旨

企業を取り巻く外部環境は、コロナ禍の経験を経て更に目まぐるしく変化している。

VUCAの時代の経営に対応、多様な働き方に対応、Web3.0（分散型インターネット）時代への備え、以上の3点を課題として抽出した。本論文では、変化に強いとされる「自律分散型組織」構築に必要とされるリーダーシップについて分析をした。

半世紀にわたり、仕事の意義、ミッションを持って働ける社員を育て会社を育ててきた経営者の取組を紹介する。

誰もが組織の中で力を発揮できるために行ってきた企業の施策を、シェアド・リーダーシップ理論、サーバント・リーダーシップ理論を使い分析、考察を行った。

人間同士の関係、社員の信頼を築き続けながら、人の育成に繋がる多くの施策を取り入れた関わり合いが、社員の成長に繋がる好循環となった事例である。

経営課題の中で組織や人に関する課題に着手することは避けられない状況になっているがぶれない軸がある「人材」が育っている企業は、外部環境の変化にも強い。企業の成長に繋げられるよう人材育成に関わっていきたい。

Ⅰ．緒言

企業を取り巻く外部環境は、コロナ禍の経験を経て更に目まぐるしく変化しており、経営課題の中の組織の体制や人に関する課題に着手することは避けられない状況になっている。

変化に強いとされる「自律分散型組織」を構築していくステップに着目することで、以下の3点に対する対応策を準備する際の参考になるのではないかと考えた。

① VUCAの時代の経営に対応

② 多様な働き方に対応

③ Web3.0（分散型インターネット）時代への備え

「自律分散型組織」を構築していくためには変革、整備が必要であるが、未だ研究の段階にある事例は得られていない。本論文では、自律分散型組織の中で活かされるリーダーシップに着目した。半世紀にわたり、「社員」を大切に育て続け、誰もが組織の中で力を発揮できるために行ってきた中小企業の施策について、リーダーシップ理論を用いて、分析・考察を行った。日本の長寿企業には「変革すること」は難しいという声が上がることも聞くが、小さな積み重ねを継続することで変革が可能であるという事例を紹介する。

Ⅱ．研究・調査方法

1．組織の変革が求められる理由の整理

①　VUCAの時代の経営に対応

※VUCA：Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）

変化のスピードが早く、多様な価値観が存在する時代には、中央集権型組織では、対応しきれないことも多い。多くの企業は、ピラミッド構造で成り立っており、指示命令を出しやすく、組織の統率を取りやすい。しかし、リーダーの言う通りに動いていればよいという上下関係のもと、社員は意見を出しづらく反映されず、受動的な行動となる傾向がある。

最前線の現場の情報（アイディア）を活かし、迅速な判断が対応できれば、多様な価値観を基に今までにないサービスの創造や戦略を実行しやすくなる。VUCAの時代に求められる環境ではないだろうか。

主体的・能動的に行動できる自律型人材の育成、組織づくりが不可欠となっていると考える。

②　多様な働き方に対応

日本経済の低迷、少子高齢化により労働人口減少する中で労働市場は変化している。人材確保が難しい等の課題がある一方、働き方に対する価値観も多様になっている。

育児、介護、治療と両立できる働き方の選択を望む社員、中途採用、シニア再雇用、外国人など様々な経験を持った社員で構成される組織、リモートワーク、フレックスタイム制の導入により場所や時間が一律でない働き方などを受け入れながらも生産性を落とすわけにはいかない状況である。また、メンバーシップ雇用からジョブ型雇用への方針を政府は出しており、今後更に組織の課題が増えそうだ。

また、新しい働き方を導入している企業も増えてきた。経団連が会員企業に22年7～8月に実施したアンケート調査では「副業・兼業を認めている」という企業は22年に53.1%に上る。

副業容認により本業の枠を越境し新たな経験ができる[1]。アルムナイ制度導入により元社員を再雇用する、ビジネス提携を行う[2]　等、社外で得た経験や人脈を戦力に変えることは企業にもプラス要因となる。多様な価値観を受け入れ、社員の裁量で働ける組織には、優秀な人材が集まり、企業の成長にも繋がっていくと考えられる。

③　Web3.0（分散型インターネット）時代への備え

Web3.0とは？『ブロックチェーン上で、暗号資産等のトークンを媒体として「価値の共創・保有・交換」を行う経済』（トークン経済)[3]　をいう。

仕組みが整えば、ブロックチェーンを介してプロジェクトに参画出来、企業に勤務する以外の働き方も可能となる。

日本において、現段階では法整備は進んでいないが、いずれ組織の在り方、働き方が変化する時がくるだろう。既存の組織の中では特性を活かしづらかった人材が活躍できる機会を増やせる可能性がある。

２．「自律分散型組織」の理解

	中央集権型組織	自律分散型組織※
構造	トップダウン型	水平型
権限	トップに集中	現場に分散、自律
意思決定	トップで判断	現場で判断

自律分散型組織は、更に3種類「アジャル」「ティール」「ホラクラシー」に分類が出来る。

「リーダーシップ」の発揮が円滑に出来るか否かが、自律分散型組織の評価に影響しそうだと考える。

３．シェアド・リーダーシップ理論の理解

①　定義：[4]

1）「グループまたは組織、あるいはその両方の目的の達成に向けて個人の間の動的かつ相互作用的な影響力のプロセス」Pearce＆Conger（2003）

2）さまざまな定義に共通するものとして「同僚間での水平的な影響力」「チーム内での自然発生的な現象」「リーダーシップの役割や影響力が集団内で分散」Zhuら（2018）が挙げられている。

3）「職場やチームのメンバーが必要なときに必要なリーダーシップを発揮し、誰かがリーダーシップを発揮している時には、他のメンバーはフォロワーシップに徹する職場やチームの状態」石川（2016）

公式的なリーダー（部長、課長）以外に、職場の誰もがリーダーシップを発揮できる。

リーダーシップは、「職場やチームの目標を達成するために他のメンバーに及ぼす影響力」ともとらえることが出来、VUCAの時代に、1人のリーダーのみで正解を出すことへの限界、変化への機敏な適応に対応できる力にもなるだろう。

「水平的」「多数の人物で分散」「流動的、自然発生的」な特徴を持つことから自律型組織を構築に必要なリーダーシップであるが、チームの目標を達成するためのマネジメントを行う公式リーダーを否定するものでない。

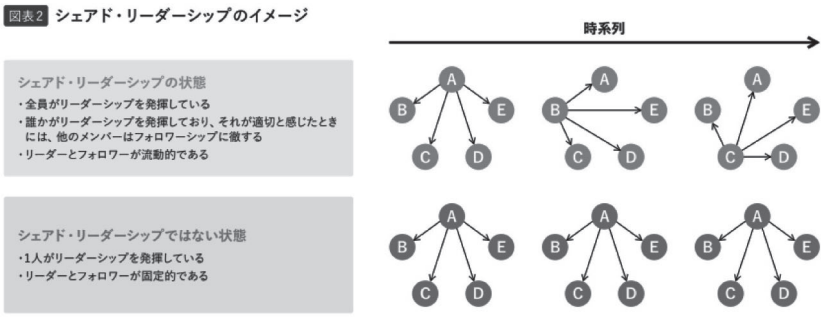


図1

② シェアド・リーダーシップを促進する要因 [5]

「分化」「統合」を同時に達成することが必要。

ローレンスとロッシュの組織形態の議論に基づくと変化が激しい組織環境においては、分化と統合の両方を達成する必要があると指摘している。

: 組織の各部が高い自律性を保持しながら、全体最適に向けて相互に連携・協力を行う。

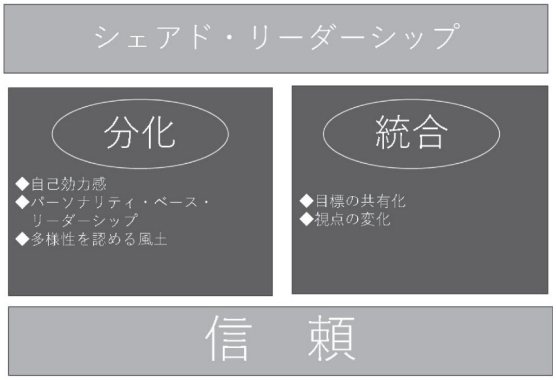


図2

◆具体的行動

『分化』

目標に向けて命令に頼らず、自律的に動く。

『統合』

職場の目標のため、全体で相互連携を取りながら仕事をする。

4．サーバント・リーダーシップ理論[6, 7]

① **定義**：相手に奉仕し、その後、相手を導く。（ロバート・グリーンリーフ）

※社員を尊重して生き方や多様性を認めつつ、活躍しやすいようにサポートすることで企業の目的や目標の達成に導く。

② **求められる10の特徴**[6, 7]

特徴	具体的行動
① 傾聴	否定せず、全力で傾聴し役立てるかを考える。
② 共感	相手の立場に立って考え受け入れ容認する
③ 癒し	相手の心を癒して、本来あるべき姿にする。
④ 気づき	自己認識力を高め、倫理、価値観の問題を理解する。
⑤ 納得	メンバーを納得させる。無理矢理従わせない。
⑥ 概念化	日常業務を超えた志の高いイメージを持ち、分かりやすく伝える。
⑦ 先見力	過去からの教訓や現在起きている現実から将来を予想する。
⑧ 執事役	メンバーから一歩引いて見守り、主体性を持った行動を取れるように任せる。
⑨ 人々の成長に関わる	組織にいるメンバーの特性を見抜き、全員の成長に全力を注ぐ
⑩ コミュニティづくり	メンバーが大きく成長できるコミュニティを創り出す。

図3

5．企業事例の調査方法

社員の自律的な活動を推進して来た経営者の組織内での人材育成の施策のヒアリングを実施。上記のリーダーシップ理論に当てはめて考察していく。

Ⅲ．結果・考察

1．企業の概要

株式会社ハチオウ（昭和47年2月創業、東京都墨田区、従業員108名、環境保全関連事業）取締役会長　森裕子氏（2020年10月より現職）は、創業者・雅宜氏と二人三脚で経営を継続、発展に力を注ぐ。

「社員（人）」と丁寧に向き合い、社員の特性を活かした活躍を後押しされた。若い人たちが、この国に生きるためにミッションをもって真剣に取り組んでほしという強い思いを持

ち、ひとりひとりとへの傾聴、尊重の姿勢、成長を促す姿勢で、社員との信頼を構築。信頼される会社と人材育成を進められている。

社長時代には多くの施策により、社員が活躍できる風土づくりを行い、得意分野でモチベーション高く、リーダーシップを発揮した活躍の結果を残している。

写真1
株式会社ハチオウ　取締役会長　森裕子様
へのヒアリング

2．施策の分析（シェアド・リーダーシップ理論の促進要因にて分類）

①　目標を共有化する

1）経営理念を行動の源にする。朝礼時に五訓を唱和。

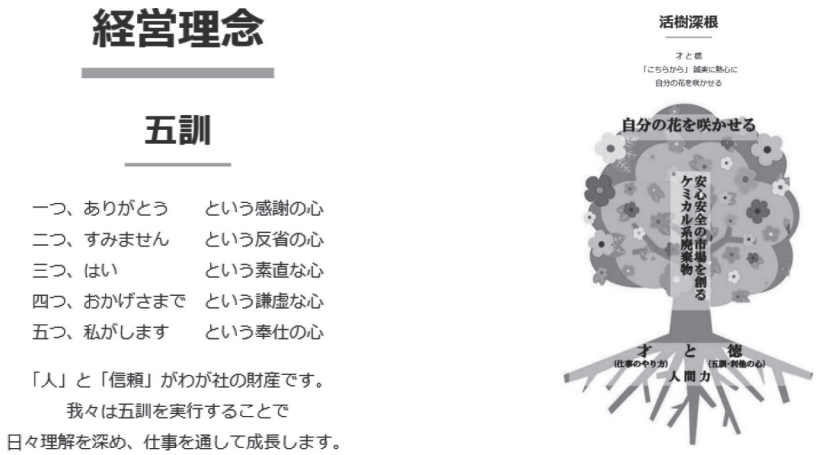


図4

2）全員参加で経営計画発表会を開催

どのような方針で、この計画が出来たのか、何をすべきかを説明。

「なぜ」必要なのか、本気で行動に移せるよう、全員に理解を促す。

経営計画は朝礼時に、持ち回りで唱和する。

3）経営を科学する

原価、損益の見える化により現場の意識改革。

社員の成長を見える化。人事制度改革により組織力を上げる。

② 視点を変化させる

1）海外社員研修（1990年～）

「時代の変化・お客様の変化を読み取れるようになること」を目的とする。

人格、品性、人望により、信頼を得、良い仕事が出来る人が育つ環境を整える。

2）大学への社員派遣で知的財産をたくわえる。

実験や研究で使う試薬、有効期限を過ぎた化学薬品などの廃棄物の取り扱いやルールの教育を行う。職員、学生と一緒になり現場管理を行う。社外の異なる環境の中での経験、知識を他の産業で応用・拡大出来る有益な知的財産にとする。

3）留学生の受け入れ

人的交流、企業間交流、業界内交流を積極的に進める。

その中での情報のプラットフォームを社会の課題を解決する力の基盤に繋げる。

4）ＢtoＳの取組。

志を持った社員が主体的に社会に向けて活動出来る機会を創出。（2023年4月）

化学系廃棄物の無害化処理の現場以外にも、家庭に潜んだ危険を伝え、語り合える場をつくる。便利、快適の恩恵を踏まえた、化学物質の功罪について幼いころから感性を高めておくことの大切さについて絵本を活用し、社会に伝える機会を作る。

処理現場の安全から日々の暮らしの
安全へ絵本で社会とともに

写真2　『コウくんのおるすばん　おうちの中の化学物質』
株式会社ハチオウ（2023年4月）

③ 自己効力感を高める（自信をつける）

1）社員が自信と誇りを持って仕事が出来る取組

1993年より、「廃棄物革命2001」有識者を招いたシンポジウム開催。回を重ねるご

とにメディアでも取り上げられ、環境問題と廃棄物処理の現状と未来を社会に知ってもらう役割を果たした。

中堅社員が指揮をとり、社員のみで開催し、司会進行は新入社員。

パネルディスカッションでは30代中堅社員に有識者と語り合う体験を積ませた。

2）社員が、得意分野でプロ意識を持って仕事に取り組めるような体制づくり。

社内資格制度。有資格者は雇用形態に関係なく有利な条件での雇用。

権限移譲し、現場に仕事の判断を任せる。任せることで、成長を促す。

④　社員がリーダーシップを発揮出来た事例（開示可能な事例のみ）

1）10社の関連会社とのプロジェクトでリーダーシップ発揮。

福島「帰宅困難区域」の化学物質処理にて、面識のない組織の方約150人を指揮しチームワーク良くプロジェクトを完了。

社員からは「経営理念にもとづく行動を実践したことが成功に繋がった」と声が上がる。自分から挨拶をする、朝礼をする、仕事が終わったらトイレ掃除をして帰る、日常の行動が大きな成果に繋がった。

2）年次に関係なく強みを活かせる場面（シンポジウム運営）で、リーダーシップを発揮、経験を積むことで更に主体的な行動が出来るよう成長へ導く体制が構築されている。

3）絵本プロジェクトで、部署を超えたメンバーとの活動を創出。

社外との関わり合いを増やすことで視野を広げる機会として現在、展開中。

3．考察

一人一人が力（リーダシップ）を発揮できる組織づくりのポイントとは。

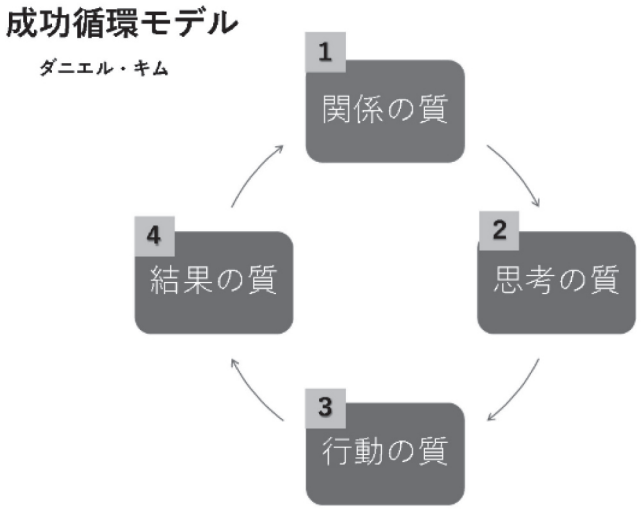
①　「信頼」を作ることから始める

施策が成功した要因は、サーバント・リーダーシップ10の特徴に該当する行動を実践し続けたことで築かれた「信頼」という基盤の強さであると考えられる。

信頼をベースに、人の育成に繋がる多くの施策を通じた関わり合いが、社員の成長に繋がるという好循環となっている。

成功循環モデルのスタート地点は「関係の質」＝「信頼」であるが、シェアド・リーダ

ーシップの促進要素の底辺部分と共通することから、物事のスタートは「信頼」であることは言うまでもないだろう。



① お互い尊重し信頼し合う。
一緒に考える

★施策を通じて
② 気づきを得る
③ 自ら考え行動する
④ 成果が得られる
⑤ 信頼関係が深まる

図5

② ぶれない軸を定着させる

シェアド・リーダーシップ促進要因の「統合」である、「目標の共有化」の施策。ぶれない軸を持った強い人材の育成に繋がっていると考えられる。

会社が目指す方向（経営計画）、指針となる考え方（経営理念）を体に染み込ませることで行動が変化する。福島でのプロジェクトの事例では社員が五訓を思い出し、自然に自律的な行動を取れるようになっていた。原点回帰する習慣があることで発揮できる力は企業の成長にも貢献できる強いものになるだろう。

③ 自信をつけさせる

シェアド・リーダーシップを促進する要因の「分化」である「自己効力感」にあたる施策。任せることで自信をつけさせる、小さな自信の積み重ねが自律的な行動に繋がっていくと考えられる。

新入社員、中堅社員を中心として有識者を交えたシンポジウム運営することは担当業務外で部署を超え、社内を超えた経験となる。成長に繋がっている。

Ⅳ．結論

この度、中小企業の人材育成の施策を元に、一人ひとりが力を発揮できる組織づくりのポイントをサーバント・リーダーシップ理論、シェアド・リーダーシップ理論から研究するこ

とが出来た。リーダーでなくとも「誰でもリーダーシップを発揮できる」という考えのもと、自律的な行動を取れる人材が活躍出来る組織づくりが出来るよう、企業への支援に携わっていきたい。

ヒアリングをさせて頂いた森会長自身は、「悩んだ時には創業者の事業のミッション、ぶれない理念の原点に立ち返っていた」という。半世紀にも渡り会社を育ててきた会長の原点は、社員の行動となって表れていたようだ。ミッションが明確で、やりがいと誇りを持って仕事を続けられる人材がいる企業は外部環境の変化にも強いだろう。

「理念は、人と企業を成長させる」ということを気づかされた次第である。
経営士として、企業の成長に繋げられる、人材育成、組織づくりに、自身が信念を持って関わっていきたい。

Ⅴ．謝辞

このたびは、本論文執筆にあたり、株式会社ハチオウ　取締役会長森裕子様にご協力を頂きましたこと、御礼を申し上げます。また、様々な機会において、学びとチャレンジの機会を与えて下さっております一般社団法人　日本経営士会の皆様に感謝申し上げます。

◇補注、図表、参考文献

1. キリンHD、副業人材を相互派遣　効果の検証容易に（日本経済新聞　朝刊　企業面　2023年5月23日）
2. 大企業も導入を始めた「アルムナイ」とは？（日本経済新聞　朝刊　2022年10月14日）
3. 経済産業省HP　Web3.0とは
https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/sangyokinyu/Web3/index.html（2023年7月16日）
4. リクルートマネジメントソリューションズ
recruit-ms.co.jp/research/journal/pdf/j202211/m68_all.pdf　RMS　Message68　（2023年7月16日）
5. 『シェアド・リーダーシップ　チーム全員の影響力が職場を強くする』石川淳著　中央経済社（2023年）
6. 『サーバントであれ　奉仕して導く、リーダーの生き方』ロバート・K・グリーンリーフ英治出版（2016年）
7. 『奉仕するリーダーが成果を上げる　サーバント・リーダーシップ実践講座』真田茂人著　中央経済社（2012年）

図1：リクルートマネジメントソリューションズ　recruit-ms.co.jp/research/journal/pdf/j202211/m68_all.pdf
RMS　Message68　P9（2023年7月16日）
図2：『シェアド・リーダーシップ　チーム全員の影響力が職場を強くする』　中央経済社（2023年）P130をもとに筆者が作成
図3：『サーバントであれ　奉仕して導く、リーダーの生き方』ロバート・K・グリーンリーフ　英治出版（2016年）、『奉仕するリーダーが成果を上げる　サーバント・リーダーシップ実践講座』真田茂人著　中央経済社（2012年）をもとに筆者が作成
図4：株式会社ハチオウ　HP　https://www.8080.co.jp/company_outline.html（2023年7月28日）
図5：筆者が作成

インフォメーション

行事・講座・セミナーのご案内

行事･研修･セミナー	日　時	開催場所	詳　細	申込方法等
第70回定時社員総会	6月28日(金) 15:30～17:00 終了後懇親会	スクワール麹町 (ZOOM配信あり)	今回の総会では 本部役員の承認が あります	——
第82回環境経営士養成講座 (ベーシック)	5月11日(土) 10:00～17:30	ZOOM配信	受講料 15,000円	——
第82回環境経営士養成講座 (アドバンスト)	5月18日(土)・19日(日) 10:00～17:30	ZOOM配信	受講料 30,000円	ベーシックコース 受講者27,000円
SDGs経営士養成講座 (予定)	6月1日(土)・8日(土)・ 15日(土)・22日(土)	ZOOM配信	資格により受講料 が変わります	——
西日本ブロックとNJK コラボ交流会	4月6日(土) 13:30～17:00	レンタルスペース フォレスト	交流会　2,000円 懇親会　5,000円	——
AMCJクロッシング	4月14日(日) 10:00～12:00	ZOOM配信	——	——
次世代リーダー道場	3月27日(水) 19:00～21 :00	ZOOM配信	——	——

AMCJ会員ひろば

～Ｓｌａｃｋを使って交流をしませんか～
〇全国の会員交流　〇自己紹介　〇“チャンネル”で交流の輪が広がります！
仲間、協力者が見つかり、スピーディーな情報が得られます！

≪チャンネル例≫

00-徒然ブログ	01-最初にお読みください	10-amcj会員ひろば
11-オープンチャット	12-一般のお知らせ	13-経営士会お知らせ掲示板
14-研修セミナー情報	31-dxウォッチング	40-会長チャンネル　他多数

ＰＣ、タブレット、スマホにＳｌａｃｋをインストールして参加申込を！

申込、ご質問は下記へ

E-mail:amcj.smc.dx@gmail.com
ワークスペース名 “AMCJ会員ひろば” https://smcdb.slack.com

インフォメーション

会員の皆様へお願い

住所変更、メールアドレスなど諸変更が生じました折には、速やかに事務局オフィスあてoffice@nihonkeieishikai.comにご連絡をお願いいたします。
今後メールにてお知らせ・ご連絡させていただく事項も多くなりますので有効なメールアドレスを是非お知らせ下さい。

（本部事務局）

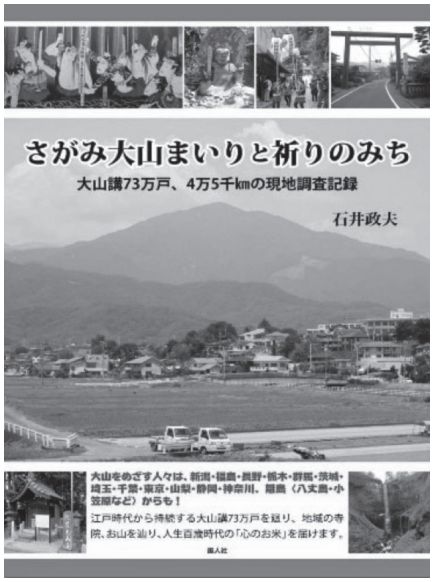
新　刊　案　内

さがみ大山まいりと祈りのみち

―大山講７３万戸、4万５千kmの現地調査記録―

新潟・福島・長野・栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・山梨・静岡・神奈川、離島（八丈島・小笠原など）からも人々は大山をめざすしました。江戸時代から持続する大山講73万戸を廻り、地域の寺院、お山を辿り、人生百歳時代の「心のお米」を届けます。（※著者は大山の米屋の出身）

著者は、関東、東海、甲信越、伊豆諸島など、江戸時代に檀家があった市町村を訪ね歩きました。その記録が、各地からの大山街道だけでなく、東海道、中山道はじめ五街道や鎌倉街道、それぞれの街道をつな道など、大山の檀家があった場所をつないでいて、新たな街道歩きのヒントになり、とても興味深いです。



著　者	石井政夫（会員No5071）		
発行所	風神社	仕　様	A4・349ページ
発売日	2024年１月６日	ISBN	978-910793-07-8
価　格	5,390円（本体4,900円＋税10%）		

訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
本部副会長をはじめ会務に多大のご尽力をされました。

＊鈴木 祥浩（近畿支部　会員No９１１）
令和5年12月30日没（享年82歳）

Management Consultant

経営に知恵と革新 Intelligence and Innovation in Management